

新潟県立中央病院

# 連携だより

発刊 第43号  
発行 平成31年1月15日  
発行者 新潟県立中央病院  
地域連携センター

新年あけましておめでとうございます

新潟県立中央病院 院長 長谷川正樹

全国の自治体で地域医療構想の策定が求められ、今後の人口減少、少子高齢化に向けた診療圏ごとの病院・診療所の役割の検討が始まりました。現在約800万人いる団塊の世代が75歳以上となる2025年、75歳以上の人口が2200万人となり日本の全人口の4分の1を占める超高齢社会が出現します。上越地方はもっと早い時期にそうなりそうです。

高齢者の方々が様々な病状の悪化のために当院に紹介や救急搬送された後、急性期の対応が終わり退院可能となってもなかなか帰るところが見つからないという状況が頻繁にみられます。お年寄りの独居、高齢夫婦のみという核家族化に拍車がかかっており、自宅での生活・介護が難しいためと思われます。

脳卒中や大腿骨頸部骨折のような連携パスが機能している疾患についてはかなりうまく回っているようですが、それでも患者さんや家族への説明が十分に理解されていなかったり、説明不足であったりし、転送先の病院にはご迷惑をかけることがありました。誠に申し訳ございません。今後とも十分な説明に向け一層の注意を払っていく方針であります。

在宅ケア・在宅診療の重要性はますます大きくなっていきますが、地域全体の医師不足・医師の高齢化の現状を見るとそれも簡単にはいかないようです。診療所・施設・病院がお互いに密に連絡をとりながら柔軟に連携することが大変重要となってきています。

地域連携センターは 当院と地域の病院ならびに診療所との連携の要であり、今後その役割はますます大きくなります。当院へのご意見・ご希望は御遠慮なくお知らせください。ご要望に沿うべく努力をしていきたいと思っております。



県立中央病院 上越市新南町205番地

TEL : 025-522-7711 (代表)

FAX : 025-524-3232 (地域連携センター直通)



## 連携登録医の紹介

### 永井歯科医院 永井 謙先生

当院は 1960 年 9 月に私の父孝之輔が当時の国立病院、吉川病院勤務を経て、高田市南本町 3 丁目に開院しました。その後父が体調を崩して、急遽私が妻子を連れて戻り、1982 年 10 月に現在地に父とともに開業いたしました。当時は所謂虫歯の洪水時代は終息を迎える頃でしたが、まだまだ歯科医が少く患者さんが大変多い時代でした。その頃、口腔外科的疾患は直江津の総合病院労災病院口腔外科に紹介して診ていただいておりますが、その後中央病院、上総病院に口腔外科が設置されて、患者さん紹介は便利になりました。



当院は高齢者の院長の元、歯科技工士 1 名、歯科衛生士 2 名、歯科助手 1 名、受付事務員 1 名の体制でそれこそ様々な病気を抱え来院される高齢者の割合が極めて高い歯科医院ですので、総合病院との連携を非常に重要と思っていますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



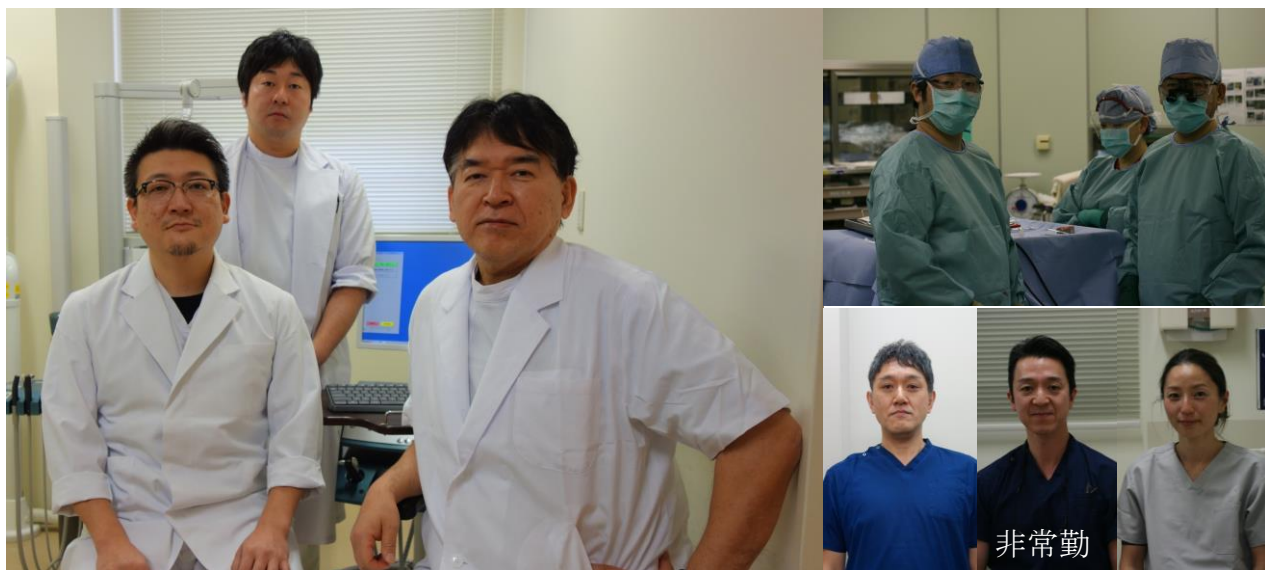


歯科口腔外科は口腔、顎、顔面ならびにその隣接組織に現れる先天性及び後天性の疾患を扱う診療科です。診療体制としては常勤医3名に大学からの助勤医、それに看護師、歯科衛生士、受付を含めた診療体制で臨んでおります。

当科での診療内容は一般の歯科医院では治療が困難な治療（親知らずの抜歯や様々な疾患を抱えた患者さんの外科的治療）から事故などによる顔面の外傷、良性の腫瘍から口腔領域の癌、また口唇口蓋裂などの先天性疾患など比較的広範囲の疾患の診断・治療を行っております。当科では特に悪性腫瘍の治療には力を入れており、近年では放射線科の協力を得て“切らずに治す”超選択的動注化学放射線治療という治療方法によって切除が困難な進行した口腔癌についても手術を行わずに局所制御をすることが可能となっております。また近年では薬剤に関連した疾患（顎口腔領域の骨髄炎など）の増加に伴う炎症性疾患の治療や口腔管理に加え、他科の悪性疾患治療前後の口腔管理などの診療が増加しておりますため、外来は多忙な状況となっております。

これらの患者さんの診療を行うにあたっては近隣の病院、医院、歯科医院、院内他科、放射線科、検査科、理学療法科および地域連携センター等様々な領域の方々の協力が必要となっておりますため、今後ともよろしくお願いたします。

なお、当科の方針として当科を受診される患者さんは救急外来を受診される患者さんを含めて基本的にはすべて受け入れることとしております。このため当科での診療業務は多忙を極めておりますことから、一般の歯科医院で行うことが可能な虫歯や義歯（入れ歯）の治療は基本的に行っておりませんので、ご理解のほどよろしくお願いたします。



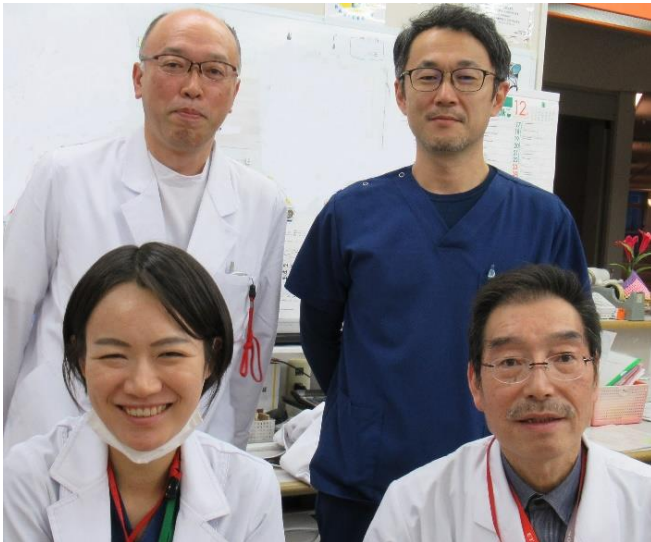
## 診療科紹介

# 産婦人科

# 有波良成



大野副院長を中心に現在4名の医師で診療しています。外来診療は午前のみ8時30分～12時(予約は9時～11時)で、1診で婦人科、2診で産科の患者さんを診ています。医療ニーズが多様化し一人当たりの診療時間も長くなり、お待たせすることも多くなっています。紹介状のない患者さんや予約のない方も受け付けていますが、できれば近隣の先生方に最初は診ていただき当院での治療が必要な患者さんを御紹介いただければ幸いです。午後は手術、症例検討会(火:産科、木:婦人科)などを行なっています。



婦人科としては地域がん診療拠点病院として上越地域のほぼ全ての婦人科悪性腫瘍(子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど)の手術を年間100件以上実施し、化学療法(外来化学療法)の他、放射線治療も放射線科と連携して実施しています。

また、良性疾患の子宮筋腫や卵巣腫瘍の手術は150～200件、子宮脱の膣式手術も約40件行っています。その他良性腫瘍ではまだ年間数例ですが腹腔鏡手術も沼田部長を中心に始めました。

産科としては上越地域で唯一の地域周産期母子医療センターとして合併症のある妊婦さんの妊娠・分娩管理をNICU(新生児科)の先生方などと連携して行っています。産科医が4名なので夜間・休日にも産科医が常駐する総合周産期母子医療センターのようにはいきませんが、上越の妊婦さんは上越で医療が受けられるように努力し、年間500件くらいの分娩(双胎は15件前後)、帝王切開は約25%です。分娩には24時間対応しています。また、当院は地域の救命救急も担っています。生殖医療(不妊治療)は基本的な検査や処置は実施しますが体外受精などは近くの不妊専門の先生にお願いしています。今後も地域医療のために頑張りますのでよろしくお願いいたします。

## PET-CTのご案内

### 放射線治療科 技師長 小池一弥

地域中核病院としての機能をより充実するため、2015年9月にPET-CT装置が導入されました。10月より運用を開始し、現在までのおよそ3年間で1500人以上の方々の検査を行い、がんの診断、治療に対応してきました。PET-CTではPETによる生体の機能画像とCTによる形態画像を重ね合わせた画像を一度に撮像し、より正確に病変部の診断ができ、がんの診断に欠かせないものとなっています。現在の予約状況は1週間待ち程度であり比較的スムーズに検査を受けていただくことが出来ます。2016年6月からはPET-CT検診を開始し多くの方々に検診を受けて頂いております。常に正確で安全な検査が出来るようスタッフ一同心がけております。今後ともよろしくお願いいたします。

